

# 杉山ゆきお後援会だより

第22号



## 議員定数1名減19名に 次回一般選挙から適用

### 杉山議員 福生市議会報告

昨年12月に開催された平成25年第4回福生市定例議会においては18人の議員による一般質問の他、市長提出議題、委員会提出議題、議員提出議題などが審議されました。議員提出議題の一つ「福生市議会定数条例の一部を改正する条例」については、杉山議員が所属する正和会が「議員定数1名削減」案を提案。当初は「4名削減」を主張していた他党派が提案を取り下げ賛成に回り、賛成多数で、議員定数1名削減案が成立しました。

### 正和会は「1名減」を提案 他党派は「反対」「4名減」

今議会では、議員提出議案で定数削減の条例改正案が提出されました。福生市議会の議員数が適正かどうかについては、2年間にわたり、全議員が参加する「議会改革検討協議会」の場で議論が続けられてきましたが、「1名削減案」「削減反対」「4名削減案」などの意見が出揃い、本会議で討論の結果、正和会が提案した議員数1名削減を骨子

とする、福生市議会議員定数条例の一部を改正する条例」が賛成多数で可決、成立しました。

これにより、平成27年4月に想定される次回の市議会議員選挙からこの条例が適用されます。

### 侃々諤々の議論を経て 杉山議員の主張が通る

私が所属する正和会では、「1名減」を最終的に提案するまでに、「今の段階で何人

福生市議会定数条例の一部を改正する条例の賛成」「反対」討論

**賛成** 福生市は、全国的に見ても人口当たりや議員数が多い市である。福生市と同規模で議員定数が少ない自治体も多い。行財政改革と市民サービスの向上の観点から、まだ定数削減の余地はあるが、削減の一步と捉え賛成する。

**反対** 議員は、議会を通して首長の行政運営を監視し、また行政に市民の声を届ける役割が期待されているが、議員定数削減はこれにマイナスの影響をもたらす。定数削減ではなく、我々の仕事で市民の期待に応えるべきであり、反対する。

**賛成** 福生市は歳出削減に大変な努力をしており、議会も自ら身を切らなければならない。本市の人口減少の現状から見て

も、議員定数は削減する必要がある。最終的には4人削減すべきと考えるが定数削減の第一歩として賛成する。

**反対** 首長権力とバランス関係を保ち、二元代表制を生かすためにも、「議会は多様性を有する必要がある。市民との距離を縮めていくことが、今求められる改革の方向性であり、議会の多様性や機動力の低下につながる本条例改正に反対する。

が適切か」「世評にただ流されて削減だけすればよいのか」など侃々諤々の議論を積み重ねてきました。私は積極的に「人口比3千人に1人、福生市は19人」を主張しました。同僚議員からは、「3千人の根拠は」「根拠薄弱だ」などの厳しい意見や「議員の仲が悪くなるか」などの意見

もありましたが、他の自治体の状況など数字をあげて説得し、最終的には私が主張した「1名減」を正和会として提案することになりました。

### 正々堂々 本会議で議論しよう

一方、他党派は「4名削減」を単独で提案する動きを見せ本会議前に正和会に削減人数

の事前調整を打診してきまして。正和会としては「削減人数を変更することはできない。貴会派の4名削減案と本会議で正々堂々と議論を戦わそう」と相手側に通告しました。

## 一事不再議の原則

国会や地方議会の会議において、一度議決した案件と同一の案件については再び同一会議中に議題として取り上げて審議や議決を行うことはできないという「一事不再議」の原則があります。つまり、正和会の「1名減」案が先に採択されると、他会派の「4名減」案は審議できないことになり、何故「4名減」なのかの議論ができません。正和会は両者の議論が見える形で進めるべく、先ず、

不採択案件を審議した後、採択案件を審議するような議事日程を申し入れ、他会派に通告しました。杉山議員は、他会派との議論に備えて、様々な角度からの想定問答を準備し、本会議に臨みました。

## 議論は不発 他会派も賛成討論

ところが、本会議において、他会派は「4名削減」案を提案せず、「自分たちは16名が良い」と思っているが、経過措置として19名に賛成する」との賛成答弁に突然の方針変更。梯子を外された杉山議員は「正和会の提案に賛同してくれたのはうれしいが、本会議までの経緯を考えると如何なものか、拍子抜けの感否めない」との感想です。

## 来年度予算 防衛省交付金減額の情報

### 杉山議員、赤池参議院議員とタッグを組み今年度並みを確保

全議員と市長が参加する「全員協議会」の場で、福生市長より「来年度予算の編成で、防衛省の交付金が減額さ

れるとの情報があった。このままでは福生市の次年度の政策が立ち行かなくなる。私も努力するが、各議員も知り合いの国会

議員に個人的に働きかけてほしい」との訴えがありました。これを受けた杉山議員は、早速、個人的に親しい赤池参議院議員の事務所へ資料を送り状況を説明しました。赤池参議院議員からは大臣折衝が終わった夜、「今年度並みの交付金は確保できた」との電話がありました。その場で即、福生市長に電話連絡。2日後には赤池参議院議員より防衛省の確定文書を送っていたできました。

## 杉山議員の言葉

『防衛省交付金減額の動きの情報を提供した後、最後まで本気になって動いていただいた赤池参議院議員に深く感謝しています。赤池参議院議員と私の力だけとは思いませんが、福生市の平成26年度予算の財源確保に向けて、表にはなかなか現れないところで私、杉山ゆきおが一生懸命、働いているということ、後援会や支持者の皆様にご理解していただければうれしく思います。』

## 街路灯のLED化進捗

平成24年12月議会の一般質問で街路灯のLED化について質問しましたが、9月議会で100W以下の街路灯を全てLED化する予算措置が講じられました。さらに12月の補正予算で残りすべてLED化することが認められています。福生院のこの街路灯は真っ先にLED化されています。ランプがV字型で反射板がついているものがLED灯です。

## 公園施設の整備

田園地区の皆様には、ご不便をおかけしてりましたが、展望公園の階段2カ所、金堀公園の階段1カ所の修理予算3千3百万円が前倒しにつき、3月までには完成します。これまでの木製ではなく、擬木で丈夫なものになります。この修理は、前年度は「お金がない」とのことです。平成26年度には是非つけてほしいと、私が強く要望していたものです。

# 杉山議員の一般質問

12月議会の一般質問において、杉山議員は3項目について、福生市の対応を質しました。

## 「ふれあいフェスティバル」について

杉山 「ふれあいフェスティバル」は「健康まつり」「産業祭」「市民文化祭」の3つを総称した名前と理解しているが、10月1日付の「広報ふっさ」では市民文化祭だけが小さく別枠で扱われている。3つの祭りの関係はどうだっているのか、との質問を市民から受けた。3つの祭りが合同で開催されるのであれば、それなりの告知の工夫が必要と思うのだが如何か。



市長 ふれあいフェスティバルの成り立ちと経緯は、平成2年度の市制施行20周年記念事業として、運動・栄養・休養の3要素をもとに市民の心身の健康づくりの大切さを自覚することを目的に「第1回福生健康まつり」が開催された。翌年、商工会の記念事業として「産業祭」が開催されることになった。その際に、より多くの市民の参加が得られるよう、市民文化祭の日程等を考慮し、同じ時期に開催することとし、健康まつり、産業祭、市民文化祭の3つの祭りを総称し「ふれあいフェスティバル」として開催している。この

から、開催日や会場が同様な「健康まつり」「産業祭」を1面に配置し、開催期間が長く表組もある「文化祭」を別ページにした。こうした措置が「ふれあいフェスティバル」のまとまりがわかりづらいイメージになったとのご意見は真摯に受け止め、今後とも、お互いの祭りの相乗効果が高まるよう「ふれあいフェスティバル」としての総合的な周知に努めてまいりたい。

杉山 台風の接近により健康まつりと産業祭が中止になったが、中止に至る経過と影響について伺いたい。

市長 10月27日に予定していた健康まつりと産業祭は台風27号の接近のため、23日の時点で止む無く中止した。気象庁から大型で強い台風27号、28号がフェスティバルの準備の真っ最中である26日に関東地方を直撃すると

の予報が23日の時点で発表されていたこと。その1週間前には台風26号により伊豆大島で大きな人的災害が起こった直後でもあり、テント設営業者から、テ

ントを設置した場合、飛ばされる可能性があるとの情報もあった。そこで、準備作業及び来場者の安全確保の観点から、産業祭実行委員長とも相談の上、中止を決定した。実際は、当初の予想より早めに台風は抜け、前日26日午後には雨は上がったが福生野球場には大きな水溜りが十数箇所残っており、設営ができるグラウンドコンディションではなかった。準備の重ねてきた関係者の気持ちを察すると苦渋の決断ではあったが「安全第一」を考えた中止の決断は妥当であったと考えている。

フェスティバルの中止は防災無線や福生情報メールを使って中止決定の23日から当日の27日までの5日間市民に伝え、さらに前日土曜日からは会場にも中止案内を掲示し、市民への告知をおこなった。

なお、イベント中止の影響は、事前準備のためのポスターや消耗品等の支払は発生したが、当日の保険相談のための保健師等への支払は発生していない。

# 福生市の電算機器のOSについて ウィンドウズXPサービス終了について

杉山 福生市の市役所や学校を含めた公共施設ではパソコンがないと業務が成り立たない状況になっている。現在、パソコンを動かす基本ソフトは、ほとんどがマイクロソフトの「ウィンドウズ」である。それも「XP」というOSが主力で、福生市もウィンドウズOSのパソコンやサーバーを使っている。そのパソコンOSのウィンドウズXPのサポートが平成26年4月9日に終了する。



▲サポートの終了するウィンドウズXPパソコン

マイクロソフトのサポートサービスが終了してもOS自体は使用可能だが、セキュリティの更新サービスがなくなり、セキュリティ対応ソフトも対応しなくなり、ウイルスやスパイウェアなどのサイバー攻撃にさらされることになる。市役所や学校のパソコンがウイルスに感染したりデータ流出すると、計り知れない広域かつ深刻な影響を及ぼすことになる。ついては、ウィンドウズ「XP」のサービス終了に対してのわが市の対応を伺いたい。3月までのスケジュール、教育関係のパソコンについても対応をお聞きしたい。

企画財政部長 ウィンドウズXPのサポート終了に伴い、庁内で使用しているパソコンの入れ替え等の対応が必要だが、庁内のパソコン入れ替え等は約80%終了している。住民情報系パソコン（住民登録や市民税業務）は対応済みである。一般業務で使っている全庁系パソコンについてもメーカーサポート終了時までに対応が終了する予定である。

教育長 市内全小・中学校に配備したパソコン788台については、平成28年度までに97%に相当する76台を更新する。現行のOSはXPである。今後のXPからの更新については、基本的にはウィンドウズ7にアップグレードする。ただし、27年8月にリリース切れるパソコンについては、費用的な問題からOSのアップグレードはせず、ウイルス対策ソフトのパターンファイアールをバージョンアップすることに対応する。更新に伴う機器入れ替え、アップグレード作業を行うまでの間の対応は、27年8月まではXPの運用になるが、対象機器は教職員用パソコンとパソコン教室用パソコンである。教職員用パソコンはインターネット環境に接続していないこと、パソコン教室配備のパソコンは環境復元機能を有していることから、安全上の欠陥については技術的に回避できるものと考えている。

## ランチルームについて

杉山 ランチルームは中学校の昼食対策として、4つの柱を基本に1中で開始され、今年10年目を迎えた。これまでのランチルームの取り組みについて、どのような運営がなされてきたか伺いたい。

教育長 柱1「弁当持参を否定しない弁当併用方式」の利用率は平成24年度の実績で28.5%となり概ね当初見込んだ全生徒の30%に近い利用率になっている。  
柱2「自ら選択できる複数メニュー」はランチ、アラカルトA、B、麺類、パン類のメニューを当初より提供している。  
柱3「学年集会や保護者が利用可能な多目的ホールの設置」は昼食時1日100人程度の生徒が利用している他、保護者や地域の方による多目的利用がなされている。  
柱4「経費の節減のため業者委託とする」は、開設当初から業者委託としている。直営で実施した場合と比べて大幅な経費節減効果があると考えている。